

2008 年ゴールデンウィーク。
島原から長崎市民の山・稲佐
山へ。

稲佐山「コース 長崎県 No.9
JOA公認 No.181 7 km 10 ポスト

島原に立ち寄って

前号で紹介した「英彦山」コースを歩いた日は佐賀駅前に宿泊し、翌日は長崎へと向かいます。

午前中は島原半島にある「焼山」コースの現状を調査に赴きました。1991年6月3日に発生した雲仙普賢岳の噴火活動による火砕流が直撃し、そのまま閉鎖に追い込まれたコースです。

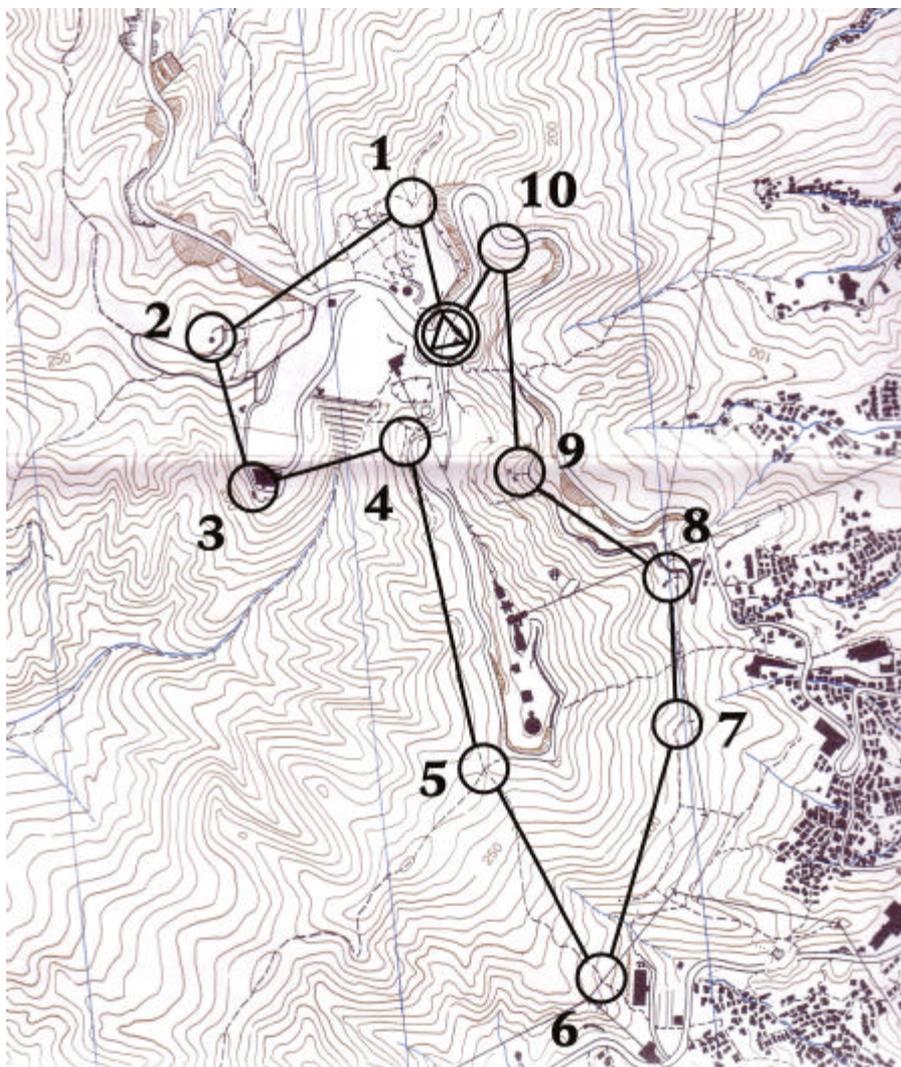
隣接している「大塚山」コース共々、島原市による管理が長きにわたって行われていました。数年前に問い合わせをした際も「大塚山は大丈夫だが、焼山は噴火が直撃してダメになった」と明快な回答を頂いています。

火砕流の影響を受けたのは第4ポスト。これ以外の9つのポストに淡い期待を抱いてスタート地点の島原市役所に向かいました。レンタカーを駐車場にとめ、周囲を見渡すものの案内板はさすがに見当たりません。閉鎖から17年が経過しているため、特に深追いはせず、さっそく歩き始めます。昭和47年当時のマップから、現在の国土地理院の地図にポスト位置を写しかえての徹底的な調査です。そして、歩き始めて最初のサプライズがいきなり訪れます。市役所前と思われていたスタート地点がそもそも違っていただけで、西に向かってわずかに歩いた分岐で案内板を発見します。フレームこそ赤錆が目立つものの、注意事項などははっきり読み取ることができる状態に、期待感がいやがうえにも膨らみます。

そして、3時間半をかけて調査した結果、6箇所で健全なポストを確認することができました。大塚山コースと同じタイプの、腐食にも強い頑丈なポストです。

長崎 稲佐山へ

その後、島原から2時間かけて長崎市内まで移動し、この日2コース目、「稲佐山」コースのスタート地点である稲佐山公園管理事務所に着きます。



近くの駐車場は休日のため満車に近い状態です。マップの扱いがあったはずの管理事務所では「教育委員会にあるから」との返答で入手が叶いません。こんなこともあるかと、持参したマップと案内板のマスターを照合してさっそくスタートです。



鉢巻山展望台から望む稲佐山

東京タワーの高さと同じという標高333mの稲佐山にパーマメントコースが設置されたのは昭和48年5月のこと。35年もの間、一度も休止期間を挟むことなく管理され続けているコースです。私もちょうど10年前の98年に一度歩いており、今回2度目。前回歩いたときには新設道路の影響で歩くのが困難な箇所があり、近いうちに別のコースを作る予定という話を聞いていました。その後間もなく予定通りのリニューアルが行われ、北側のエリアがカットされ、南へと拡大したコースが新たに組まれています。これまでは回っていた山頂へも、新コースでは訪れなくなりました。

1 番からのつまずき

第1ポストはマスター記載の誤りか、とんでもない斜面に記されています。稲佐山公園のドッグランを横に見ながら北端に続く小道に入り、斜面を探そうと思ったところで、道端にポストがあるのを発見します。長崎市内のコースは時折古いコースのポストをそのまま放置していることがあり、これもそんなポストではとアタリをつけていったんは通過。そして、斜面へと探索範囲を移していきます。ところが、これが初心者を手にしたパーマネントコースかと思えるほどの急斜面であり、とてもポストを置けるような場所ではありません。念のために一通り探してみたもののマスター位置にポストはなく、道端のポストが第1ポストと納得します。

つつじ園を縫うように続く遊歩道を下り、道路を横切って西へ再び上りとなります。第2ポストは「鉢巻山展望台」にあるのですが、かなり古びている上に第1ポストと異なる形状のため、疑問符が点ります。しかもここは新コースで初めて組み込まれたポスト位置。新品があってもおかしくないところです。しかし、これ以外のポストは見当たらず、第1ポストに続いて「納得」という形で先を進みます。

第3ポストは旧コースの第5ポストと同じところ。そこは90年の「長崎旅博覧会」開催時に建設された野外ステージで、地元出身のさだまさしが毎年夏にコンサートを開催してきたことでも知られています。ステージの裏側に回りこむと、10年間の時を刻んだポストが健在でした。



ここまではパーク0並のやさしいコースでしたが以降は一転、上級コースの様相を呈してきます。

駐車場の南側を歩き、隠しルートのように続く小道に入ります。ここで喜んで下っていくとコースアウトしてしまいます。すぐに上る道を見出し、直登。さらに南へ入るやや不明瞭なルートを見定められればポストへ導いてくれます。

先ほどまでの賑やかな雰囲気は嘘のような林間地帯。この先等高線に逆らって急激に上り下りするようなことはなく、息こそあがらないものの、緊張感に包まれる区間です。途中、今回カットされた旧第7ポストが現役の顔をしてそのまま残されています。一瞬惑わされましたが、その先に続く道がくだりではないことから目指すポストではないことを確認。そしてさらに南に進んで分岐に到達すると、隠れ気味の第5ポストを発見します。これは旧第8ポストと同一です。



ポストは独特のスタイル

ここから旧コースは山頂を目指しましたが、新コースでは次のポストまで高低差130mのくだりとなります。踊り場もなく、一気に高度を下げていくと送電線が上空を横切る地点に第6ポストを確認します。第2ポストと同じタイプのポストです。

介護老人施設「稲佐の森」を經由して北に続くルートは、新コースとしては意外なほど不明瞭で、難易度がアップします。わかりにくい入口からルートを見出しても、その先に続く小径はいつの間にか消え入りそう。丁寧に丁寧に歩いていくと、次第に明瞭な道となり、鮮明な第7ポストに到達します。観光地の手軽なコースと思って挑むと面食らう区間でしょう。

ここからはもう安心です。小道をたどり、一度十字路を通過すると「稲佐高部配水槽」の手前で第8ポストが確認できます。そして、小道をここで終え、道に沿って進むと「八大龍王」というひっそりとした小さな神社があり、境内に錆の目立つ第9ポストが立っています。

変化に富んだコースも間もなく終了です。最終ポストは地図を見る限り、

主要道路のカーブにひょっこり立っているように見えますが、さすがにそこまであからさまではありません。記載のない旧道があり、ポストはこちらに立っています。すでに使用されていない道を利用しているのも面白い設定です。

ゴールまではここから5分ほど。観光客も家路に就く17時10分に終了しました。

市街地からすぐのところにあるコースです。観光&PC巡りで長崎を訪れてみませんか。

(2008年4月29日 踏破)

(大高竜亮)